R6(2024)年度　成果報告

南河内の「にわか」を軸とした芸能文化：調査・普及活動を通した多世代間の交流と活性化

薗田　郁

■活動内容

南河内の諸芸能のうち「にわか」を中心に当該地域での芸能の調査および普及活動を進める。芸能の担い手が中心となり、広い世代に共有できる場（多世代が交流する公共施設など）で芸能の実演を行う。また若い世代への共有を促進するために、音声・映像メディアを使った調査・普及活動を実施して、世代を超えて芸能を共有する場を多く作り出し、地域コミュニティの活性化も促す。

■コンセプト・ねらい

南河内の「にわか」は当地域に広く受け継がれた芸能であり、毎年地域の祭りでも披露されるが、だんじり唄・囃子などと比べると、若い世代の担い手はそれほど参加出来ていない。本活動を通じて、当地域で継承された芸能文化が、若い世代を含む多世代に共有・活用され、地域の人々がそれを主体的かつ継続的に動かせる仕組みづくりを目指す。

■活動実績

・聞き取り調査

5 月から 10 月にかけて地域の担い手および関係者へインタビュー取材を複数回行った。主に富田林市の美具久留御魂神社で「にわか」を奉納する各地域のにわか演者を対象に対して行い、また 11 月に行われる「子供にわか発表会」の出演者、成年男子（中高生含む）、さらに演者ではない関係者（たとえば裏方担当者）なども含めた幅広い世代にインタビューを行った。

・映像音声収録

上記の聞き取り調査は映像音声収録も行った。音声は編集を行い、音声メディアコンテンツ（「ラジオにわかおこし」）を制作した。下記シンポジウムで公開した他、ウェブ上での限定公開を予定している。映像記録は 10 月に行われた神社の秋祭りの様子も収録した。神社の境内を中心に、各地域の地車の入場から「にわか」披露、退場までの映像を収めるとともに、「にわか」実演にあたっての演者の着付けの収録、また実演後のインタビューも収録した。収録した映像については、地域の人々と今後の活用方法を協議中である。

・公開シンポジウム

11 月（11 月 17 日）に「にわか」の実演披露を行い、併せて継承活動に関するシンポジウムを行った。シンポジウムでは「にわか」周知のため、これまでの「にわかのインタビュー音声の披露、さらに10月に収録した祭りの映像を部分的に公開して、継承の取り組みを地域の人々へ共有した。

■成果・効果

・インタビューによる聞き取り取材について

聞き取り取材を行ったことで、各地域で「にわか」がどのように取り組まれているかが明らかに

なった。これは、実施した事業者自身はもちろんのこと、インタビューの受け手である、にわかに関わる地域の当事者にも、大きな効果をもたらしたといえる。毎年、お祭りの時期に行う恒例の行事ではあるが、インタビューや音声、映像収録を行うことで、地域の芸能への関心がそれまでとは違った形で集まったと考えられる。

・映像および音声収録について

中でもインタビューに伴う映像・音声の収録は、普及・周知活動にとって大きな成果となったと考えられる。具体的にいえば、普段目にすることができない近隣地域の「にわか」を見ることができたり、当日境内でのにわかの実演を見られない各地域の人々にも、映像などで当日の様子を伝えたりすることが可能となり、より多くの人に地域のにわかを知ってもらう機会（素材）を作り出せた。

また取材を受けることで、改めて「にわか」を演じる、伝えるということの意味を考える機会が生まれたという意味で大きな成果であったといえ、それ自体が芸能伝承活動のモティベーションにも繋がっている部分も見出せた。当事業の活動において、当初は映像や音声を一つの補助的な手段と捉えていたが、今回の事業で主体的な機能を果たした。映像・音声の活用は今後検討する必要があるが、今回の事業では多くの成果をもたしたと考えている。

■今後の展開

インタビューについては今後も継続的に行い、対象となる地域を拡げて行う。また、映像や音声は、「にわか」の周知・普及活動において、より積極的に活用すべき方法であると考えている。活用方法については、地域の人々と話し合いを設け、検討していきたい。

一方で、より多くの人が地域の芸能継承の活動に参加するには、これまで取材の主体となっていた演者だけではなく、さらに広い対象の人々へにわかの継承活動への参加を促していきたい。そのために、より多くの人に参加してもらうための取り組みも並行して行いたい。定期的な公演（令和７年９月予定）が行われる場での普及活動の紹介や、小中学校での活用は、今後進めていくべき方向性の一つと考えられる（小中学校での郷土芸能などの学習)。そういった場でも、映像や音声の収録素材などをうまく使うことで、普及・周知活動から実際の継承活動にうまく繋げたいと考えている。

上記の継承活動は、にわか継承が当地域の多くの人にとって、無理のない主体的な行動へと変わっていくような仕組みとして機能するように進めていきたい。

稽古の見学

聞き取りインタビューの様子

継承活動の紹介

音声メディアコンテンツの紹介

10 月の祭でのにわか披露①

10 月の祭りでのにわか披露②